NIE実践報告

1．タイトル：**☆環境新聞を作ろう**

2．学校名

長野県大町市立第一中学校

3．実践者名（代表者名）

中山　実

4．学年

第1学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　120人

6．単元（本時の学習課題）名

「真実を語る」　「調べたことを正確に伝えよう　～新聞にまとめて～」

7．目標(狙い)

教科書教材「未来をひらく微生物」の学習の発展学習として、環境問題についての新聞記事を探し、そこからテーマを絞って調査活動をし、調べたことを新聞として発表する。

8．評価の視点

課題に合わせた材料を選び、自分の意見と根拠となる事実を正しく伝える新聞ができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「未来をひらく微生物」（教科書教材：光村図書）［国語：5時間］「新聞記者から学ぼう」［国語：2時間］［環境新聞を作ろう」［国語：11時間］　　合計18時間

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「未来をひらく微生物」を読んで、段落の役割を知り、文章構成を理解する。　（5時間）
②新聞記者の話から、事実を正確に伝える書き方を知り、また、新聞の作り方を学ぶ。　（2時間）
③「環境に関わる問題について、新聞記事から集材し、課題を絞って新聞を作る。　（10時間）
④新聞を読み合う。　（1時間）

（留意点）
- **事実が根拠となっていることに気づかせる。**
- **新聞記事が多くの人の目を通ってできていること、事実を正確に伝える書き方、構成の仕方など、新聞記者の生の声から学ばせる。**
- **新聞の特徴に気づかせ、作り方を習得させる。**

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

新聞記者の話から、見出しの工夫をし、わかりやすい構成の学習新聞を作ろうと意識した生徒が多かった。市役所に聞き取り調査に出かけたり辞典やインターネットで調べたりした生徒がいる。5W1Hを意識して書いた生徒が多い。

12. 成果と課題

文献の内容の書き写しになってしまった作品もある。時間はかかったが、丁寧な新聞が多く構成の確かな作品が多かった。新聞記者に国語の授業のTT（チーム・ティーチング）として入っていただいた。その効果は大きいが、どの場面で、どのように入っていただくのがよいか、今後の課題として残った。